

第1学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 内容項目 感謝の気持ち 2-(6)多くの人々の善意や支えにより日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる

資料名 12 ピースサイン

出典 「彩の国の道徳」中学校『自分を見つめて』埼玉県教育委員会

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

生徒は、相手の気持ちを知らず、一人で突っ走ってしまうことがある。相手の気持ちを知ることにより、自分の考えが変わり、そしてその相手に対して自分が行動しようと思うようになることがある。

特に中学生という時期は、自分の思うようにいかないことに、ひどくいらいらしたり、不安を覚える年頃である。お互いの気持ちを理解することで、行動が変わってくるというところに気づき、さらにそれを行動に移すところまでできることであってほしいと願い、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態について (男子18名 女子16名)

全体的には男女ともに仲が良く、明るいクラスである。しかし、男子はまだ幼い部分が残っており、行き過ぎた言動や行動が時々見られる。女子は、文化部に所属している生徒が多いためか落ち着いて行動することができる生徒が多い。中学生になると自己中心的な考え方になりがちであるが、日々の生活や道徳の授業を通して、少しでも幅広い視野や考え方に気づき、自分の行動を振り返れるよう指導していきたい。

3 資料の活用について

下級生の誠也とペアを組むことになった、主人公の慎祐。同級生とペアを組むとばかり考えていたので、ショックと大会に向けての焦りから怒りを誠也にぶつける場面がある。同級生に愚痴をこぼすが、慎祐に対する誠也の気持ちを知ること、慎祐の気持ちが変わって行くが、そのときの慎祐の気持ちを考えていきたい。また、相手への感謝の気持ちに気づいてから、どのように慎祐が行動をしたのか、どういう気持ちで行動したのかを考えさせたい。

4 学校研究主題との関わり

学校研究主題 『よりよい生き方を探求する道徳指導の工夫』

(1) 「よりよい生き方を探求する生徒」の育成

道徳教育は、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことが目標であり、道徳の時間は、学校の教育活動における道徳教育の要として、計画的、発展的な指導によって補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的

実践力を育成するものである。

本校の学校教育目標は「創造・信頼・実践」であり、①自ら学ぶ生徒 ②自他を大切にする生徒 ③心身を鍛える生徒 を育成したいという願いが込められている。本研究主題は、道德教育の目標と本校の①と②の関わりに即したものであると考えている。

学校生活の中にある様々な「体験」と、道德の時間に学ぶ道德的価値のつながりを実感させ、自分の生き方に染みこませたい。そのためには、「体験」をより意義のあるものに高め、次なる体験に生きてはたらくような手だても必要である。そこで、日常の学校生活の中にある「体験」を、生徒自身の生き方にどのように生かすのか（どのように結びつけるのか）教師が計画的に設定し、支援しなければならない。

本研究主題のねらいを達成するため、以下のような仮説を立てた。

- ① 学校生活の体験（行事等）とそこで得られる道德的価値観をつなげるために、各学年共通で事前道德を実施する。
 - ② 事前に学んだ価値を基に、体験をさせる。
→他者と協力して活動することで、他者を大切にする心、自ら活動する心が育つ。
 - ③ 体験後の生徒の感想を他の生徒に伝え、価値を共有する。
→体験で得られた価値を、全ての生徒に補充・深化する。
 - ④ 事後に同じ価値の道德を行い、他の活動も実践していく気持ちをつくる。
→体験で得られた価値を、全ての生徒に補充・深化・統合する。
 - ⑤ 他の類似した体験をする際に、生徒自身が自ら実践するようになる。
- ①～⑤の仮説から、教師の支援によってよい生き方を自ら探究していく生徒の育成につながるのではないかと考える。

そのため、本校では、以下の取組を行っている。

- ①修学旅行・体育祭・合唱コンクール・社会体験学習・スキー教室などの行事に合わせて、その事前と事後に各クラス共通の資料を授業で扱う（各学年内で共通のもの）。
- ②どの学年どのクラスでも道德プリントを共通の形をとり、「活発な言語活動を行い、他の人の意見を聞きながら自分の考えを深めていけたか」を反省できるようにする。
- ③各学年生徒の感想をまとめ、事前道德の後＝行事前に道德通信を発行し、学んだ価値を基に行事に迎えるように計画的に促す。
- ④行事後の感想をクラス内に掲示し、同じ価値（「主として集団や社会との関わりに関すること」）に触れた資料を各クラスで扱い、学校生活以外の体験でもその価値を感じられるように促す。

(2) 本時ではどのように取り組んで行くか

1学年は、10月の新人戦に向けて今回の主題を「感謝の気持ち」とおいた。運動部ではない生徒もいるが、自分が主人公の立場になったつもりで「2-(6) 多くの人々の善意や支えにより日々の生活や現在の自分があることに感謝しそれにこたえる」に視点をあてていく。今回取り組む「ピースサイン」を通して、友人との信頼関係を改めて考えさせ、友人に感謝することを考えさせたい。

本資料中では、まず主人公が希望していたペアと一緒になれなかった場面の気持ちを考えさ

せたい。同時に、そのときの誠也の気持ちも考えることによってだんだんと二人の気持ちが近づいていくことがわかると考える。自分の希望通りにならないとイライラや不安を感じる生徒が多い。そこで、相手の気持ちを知ること、自分の気持ちがだんだんと変わる慎祐をみて、自分に置き換えて考えてほしいと考える。

また、一人一人が自分の意見を発言できるように、発言者とほかの生徒の聞く姿勢を整えてから授業をすすめる。また、補助発問を細かに設け、ほかの人の意見を聞いたうえで発言するように授業を展開する。指導者がこのような意識を持って授業の発問をしていくことで、本資料で扱う価値について生徒が深く考えていけるようにする。

このように、言語活動の充実から、道徳の授業で扱いたい価値を生徒に浸透させることで、さまざまなことに対して、生徒の意欲が高まると考える。そうして、さまざまな実践をさせ、心情を育てる道徳の時間をつなげて、心豊かな生徒の育成を目指して生きたい。

5 本時のねらい

- (1) 相手が自分のために一生懸命行っていることを知ったときに、自分はどう感じるかを考えさせる。
- (2) 感謝の気持ちをもって、行動することを考えさせる。

6 指導計画

(1) 計画

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>事前</p> <p>○新人戦を前にして、大会に向けての気持ちを考える。</p>	<p>○先輩が主として、大会に臨む部活が多いが、後輩としてどのように大会に臨むか、考えさせる。</p>
<p>事後</p> <p>○道徳通信として全校に配布し、生徒の感想から、その価値を広める</p>	<p>○短学活や学級通信などを活用する。</p>

(2) 事前指導・事後指導の関わり

新人体育大会の事前学習として「2-(6)多くの人々の善意や支えにより日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる」について扱う。事後には、「2-(2)温かい人間愛の精神を深め、ほかの人々に対し、思いやりの心を持つ」について扱う。

7 本時の学習指導過程

過程	ねらいとの関連	学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆研究課題との関連
導	気 つ か む	“ピースサイン”をすればきはどんなときだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしいとき ・試合に勝ったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピースサインの挿絵を黒板に貼る。

入	づ く	と ら え る	<p>資料配布</p> <p>◎資料「ピースサイン」を読み、話し合いの方向づけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の範読を聞く。 ・登場人物の確認。 ・状況をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の内容に関心を持つ。 ・主人公の行動や気持ちにそって資料の範読を聞く。 <p>登場人物：慎祐、誠也、航平 状況：主人公はもうすぐ30歳。16年前の部活動のできごと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアを組む相手に対する思いの変化に着目して読む。 <p>☆資料を通して、主人公の行動や気持ちをとらえる。</p>
展 開	考 え る	深 め る 見 つ め る	<p>◎資料を読んで話し合う。</p> <p>①ペアの名前が呼ばれて、慎祐はどのように感じたのだろう。</p> <p>②誠也の頑張りに気づいたときの慎祐の心の中はどうだったのだろう。</p> <p>③なぜ「誠也、ごめんな。」と言ったのだろう。</p> <p>④『心の贈り物』は何だったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・えっ？誠也？オレの耳には入ってこなかった。 ・なぜ、オレの相手は航平じゃないんだ？ ・航平と組んだら、優勝だって夢じゃなかったのに・・・。 ・オレはどうしたらいいのかわからなくなってしまった。 ・全然知らなかった。 ・オレばかりが誠也を支えていると思った。 ・誠也はそれ以上にオレのことを思ってくれていた。 ・誠也がとても大切なオレのパートナーであることがはっきりとわかった。 ・相手のことを考えて行動する気持ち。 ・相手に感謝する気持ち。 	<p>☆他の生徒の考えを聞くことで、自分の考えとの共感や違いに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人の生徒の考えから、他の生徒に補助発問を広げていく。 ・発表が少ないときは、こちらから指名する。 <p>☆一人ひとりの発表に耳を傾け、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉でうまく発表できない生徒には言葉を補って全体に伝える。
終 末		つ く る	<p>◎本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業を振り返る。 ・教師の話聞く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ロンドンオリンピックのエピソードを話し、「思いやりの心」をもつ大切さに深く考えさせる。

8 評価の観点

- (1) 相手が自分のために一生懸命行っていることを知ったときに、自分はどう感じるかを考えさせる。
- (2) 感謝の気持ちをもって、行動することを考えさせる。

資料分析表

資料名 「ピースサイン」

【スタートの条件】

主人公・・・「慎祐」

・テニスの大会があるのだが、自分とペアを組むのは、同じ2年生とっていたが、下級生だった。

【話題につなげたい場面】

自分が下級生とペアを組むことになった。

【キーワード】

「二年慎祐、一年誠也」
航平と組んだら優勝だって夢じゃなかったのに

【考えさせたい心の中】

ペアの名前が呼ばれて、慎祐はどのように感じたのだろうか。

誠也が感謝の気持ちを持って、頑張っていたことに気づいた。

「慎祐先輩のおかげです」
お礼の気持ちを込めて、毎日練習後に磨いている

誠也の頑張りに気づいたときの慎祐の心の中はどうだったのだろうか。

誠也はピースサインをして、ニコニコして慎祐を見つめる。

「誠也、ごめんな。」誠也はうれしそうに「はい」とうなずき、ピースサインをした

なぜ「誠也、ごめんな。」と言ったのだろうか。

誠也の写真を見ながら、昔を思い返している場面。

『心の贈り物』今でも大切にしているよ

『心の贈り物』とは、何だったのだろうか。

【板書計画】

絵

「ピースサイン」

登場人物… 慎祐、誠也、航平

主人公

○ 『心の贈り物』とは、何だったのだろうか。

○ なぜ「誠也、ごめんな。」と言ったのだろうか。

・ 誠也はそれ以上にオレのことを思ってくれていた。

・ 誠也がとても大切なオレのパートナーであることがはつきりとわかった。

○ 誠也の頑張りに気づいたときの慎祐の心の中はどうだったのだろうか。

・ オレはどうしたらいいのかわからなくなってしまった。

・ 全然知らなかった。

・ オレばかりが誠也を支えていると思った。

○ ペアの名前が呼ばれて、慎祐はどのように感じたのだろうか。

・ えっ？誠也？

・ オレの耳には入ってこなかった。

・ なぜ、オレの相手は航平じゃないんだ？

・ 航平と組んだら、優勝だって・・・。

道徳プリント 「ピースサイン」 を読んで

年 組 番 名 前

○場面は・・・

○主人公の気持ち・・・

○場面は・・・

○主人公の気持ち・・・

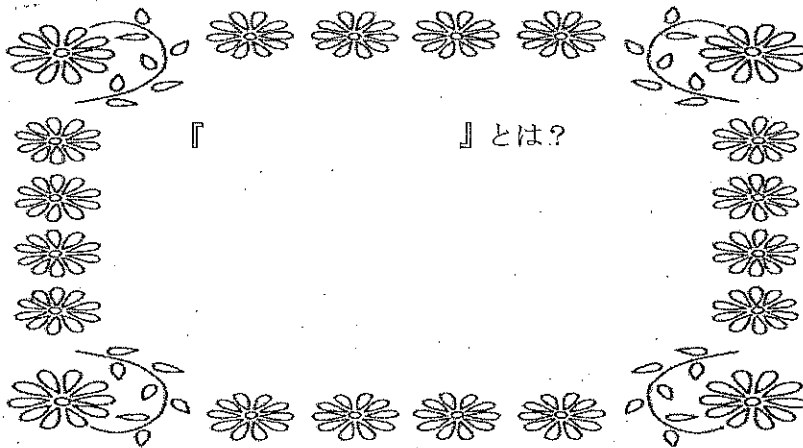


○場面は・・・

○主人公の気持ち・・・

○場面は・・・

○主人公の気持ち・・・



今日の授業を振り返って

☆主人公の気持ちを、自分なりに考えることができたか

発表までできた ・ 考えを書くことはできた ・ できるものとできないものがあった ・ できなかった

☆他の人の意見を聞いて、自分のものと比べることができたか

自分のものと同じ意見があった ・ 自分のものと違う意見があった ・ 他の人の意見は聞いていなかった